

平成14年度

1. 誌上发表
(1) Prolonged shedding of rotavirus in a geriatric inpatient. J Med Virol. 64 (4): 613-615 (2002) Mori I, <u>Matsumoto K</u> , Sugimoto K, Kimura M, Daimono N, Yokochi T, Kimura Y.
(2) Successful protection by amantadine hydrochloride against lethal encephalitis caused by a highly neurovirulent recombinant influenza A virus in mice. Virology. 303 (2): 287-296 (2002). Mori I, Lie B, Hossain MJ, Takakuwa H,
(1) 福井県の散発下痢症患者由来大腸菌株の中にみられた病原遺伝子保有率の高い4種血清型について 感染症学会誌 76 (9) 730- 737, (2002) 石畝 史・中村雅子・浅田恒夫
(2) 下水から分離された <i>Salmonella</i> Typhimurium DT104 の分子疫学的検討 北陸公衆衛生学会誌, 第 29 巻 (1), 17- 21, 2002 中村雅子・石畝 史・村田 健・浅田恒夫・堀川武夫・泉谷秀昌・渡辺治雄
(3) 我国周辺のライム病ボレリアの疫学調査における新たな展開 虫の知らせ 第56回日本衛生動物学会西日本支部大会記録), 三恵社, 109- 113, (2002) 高田伸弘・石畝 史・増澤俊幸・藤田博己・矢野泰弘・大竹秀男
(4) マダニ媒介性振興感染症の病原体の微細構造について 虫の知らせ (第56回日本衛生動物学会西日本支部大会記録), 三恵社, 109- 113, (2002) 矢野泰弘・高田伸弘・藤田博己・石畝 史・齊藤あつ子
2. 学会発表
(1) 福井県内で分離された <i>Escherichia coli</i> O111:H21 における PFGE パターンの多様性と薬剤感受性 第 76 回日本感染症学会 (平成14年4月、東京都) 石畝 史・飯田和質
(2) 短期間に続発した STEC O157 感染症の分子疫学的検討および糞便検査における免疫磁気ビーズ法の の応用について 日本獣医公衆衛生学会 (中部) (平成14年9月、福井市) 石畝 史・中村雅子・宇都宮央子・浅田恒夫・杉浦正樹
(3) 北潟湖および三方湖における植物プランクトンの変遷について 日本水処理生物学会 (平成14年11月、さいたま市) 塚崎嘉彦・鉾崎有紀・加藤賢二
(4) 福井県における自殺死亡の精密分析 第30回北陸公衆衛生学会 (平成14年11月、福井市) 佐澤恵美子・松本和男
(5) 勝山みずなの抗酸化力について 第30回北陸公衆衛生学会 (平成14年11月、福井市) 堀川武夫・松井利夫・出口幸則
(6) 水銀感作に関連する環境因子 (2) 第30回北陸公衆衛生学会 (平成14年11月、福井市) 森 富男・平井敏之・佐藤一博・日下幸則

<p>(7) 光化学オキシダントの濃度分布に関する解析 第29回環境保全・公害防止研究発表会 (平成15年1月、宮崎県) 嶋崎明宏・酒井忠彰・宇都宮高栄</p>
<p>(8) 大気汚染監視システム間の毎時測定データ自動送信への e-mail の活用 第17回全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部研究会 (平成15年2月、名古屋市) 山田克則</p>
<p>(9) 健康食品中からの医薬品成分の検出事例について 第31回合同研究発表会 (平成15年2月、福井市) 森 富男</p>
<p>(10) 福井県内の地下水汚染の状況と地域特性について 第31回合同研究発表会 (平成15年2月、福井市) 坊 英二</p>
<p>(11) 水月湖、三方湖で優占する紙状性藍藻 (<i>Planktothrix agardhii</i>) の変動とその増殖特性について 第37回日本水環境学会 (平成15年3月、熊本市) 銚碕有紀・塚崎嘉彦・加藤賢二・吉田天士・廣石伸互</p>
<p>(12) 水銀感作に影響を及ぼす環境因子 第73回日本衛生学会総会 (平成15年3月、大分市) 森 富男・平井敏之・佐藤一博・日下幸則</p>
<p>(13) 給食当番児童を介して集団発生したと考えられるNLVによる急性胃腸炎事例 衛生微生物技術協議会 第23回研究会 (平成14年7月、奈良市) 東方美保・松本和男・堀川武夫・岡島一雄</p>